

2015年度 聖ヤコブ幼稚園 学校評価結果公表シート

学校法人日本聖公会三重学園
聖ヤコブ幼稚園

1. 園の教育目標

本園は、学校教育法及び教育基本法の基づきながらキリスト教(日本聖公会)の根本の教えである「愛」の精神をもって、一人一人をかけがえのない存在として大切にし、成長してゆく幼児に人生の早期から宗教的情操を与えることによって心身の発達を援助し、健全な人格の形成、愛情豊かな子どもに育つよう教育したいと思っています。愛された子どもは、人を愛することができます。また、子ども自身が持っている創造性や興味を、遊びを通して引き出し、自己表現や人とのかかわりを体験的に学びながら、人間としての基本的なことを、身につけてゆくものです。そのため本園では、「遊び」というものを大切な「学習の場」と考えています。「程よい抵抗」を与えながら「遊び」を通して成長してほしいと願っています。

教育理念

「キリスト教の愛の精神をもって、一人一人を大切にし、愛情豊かな子に育てる教育につとめてゆく」ことを教育理念とした保育を行っています。

- ・ 神様の愛を知る子ども
- ・ のびのび遊ぶ子ども
- ・ 思いやりのある子ども

日々のお祈りや礼拝堂での礼拝、また、花の日やクリスマスなどの行事を通して神さまと人々に感謝し、すべての人のために祈ります。こうした宗教的環境は、目に見えないものに対する感性を豊かにします。そして聖書のお話を見聞きし、キリスト教の愛の精神に根ざした人と人のつながりの大切さを学んでいきます。つまり、何よりも「自分が愛されている存在」ということを体感し、「愛され大切にされている事実から、人を愛し大切にしていゆくことを学ぶ」ことを目指しています。

2. 本年度の重点目標

幼児期に教えなければならないこと、この時期に経験しなければならないことを園全体で考え、教師一人ひとりが温かい雰囲気の中で園児一人ひとりに寄り添い保育を実践することのできるように努めます。その為に幼児の理解、教師の連携・協力体制の強化、教師としての質の向上、保育環境の充実に力を注ぎます。

3. 評価項目と取組み状況

評価項目
①【教師としての質の向上】 園の教育方針・保育理念をよく理解し、子どもの性格や育ちを考慮した上で、幼児期にふさわしい指導計画を立て実践する。個々の幼児について保育者同士でコミュニケーションをとりながら、協力・連携をしていく。研修・研究会には、積極的に参加し、自己課題が達成できるように努力する。
取組み状況
<ul style="list-style-type: none">・自園ならではの教育・保育を大切にしながら、一人ひとりの幼児の姿や発達をよく見て理解し、指導計画に沿って実践していく。・教職員が日々の保育や幼児の情報を共有し、協力・連携して保育を行う。・園内外の研修・研究により保育の質の向上に努める。

評価項目
②【心をつくる保育環境の充実】 子どもたちが楽しく登園し自己発揮できるように、子ども一人ひとりの心に寄り添い保育する。子どもたちが生き生き生活できるように、四季を感じたり、動植物の成長を楽しみにしたり、自然の不思議さや美しさを感じるようなわくわくする活動を行う。子どもがスムーズに就学できるように、小学校や市と連携し一人ひとりにあった指導の配慮、情報の共有化を図る。
取組み状況
<ul style="list-style-type: none">・保育の内容や進め方を工夫し、幼児の興味や意欲を引き出せるような活動を行う。・園外保育、野菜の栽培、生き物の飼育や観察などを通し、自然への関心が持てるような機会を作る。・教育委員会や子ども支援室の協力や保育指導を受け、一人ひとりに必要な配慮が行えるようにする。

評価項目
②【子どもの生活習慣に関する研究】 『睡眠・食事・排泄・清潔・衣類の着脱』など幼児期にしなければならない生活習慣づくりのお手伝いを家庭と連携して行い、集団生活の中でよく育つ『挨拶をする、約束を守る、遊んだ後は片付ける、物を大事にする、順番を守る、小さい者・弱い者を可愛がる、人の物・自分の物の区別をする、体を動かして遊ぶ』などを園全体で考え子どもたちが身につくように研究する。
取組み状況
<ul style="list-style-type: none">・一人ひとりの成長に合った援助が行えるよう、家庭と連携して基本的な生活習慣の獲得ができるようにする。・園全体での活動や日々の生活の中で、異年齢の関わりを大切に、子どもたちが共に育ちあえる機会を作っていく。

評価項目
④【保護者との連携の充実】 園での子どもたちの様子や成長がわかるように、園からの情報発信に努める。子どもたちが成長できるような行事を教師間で話し合いながら、計画するとともに保護者も楽しく、積極的に園に関わって貰える行事や保育参観を企画・実践する。
取り組み状況
・各担任が、登降園時に子どもたちの様子を伝えると共に、園の取り組みについての情報発信の方法について定期的に見直しを行い、保護者の行事や活動への理解や協力を得られるよう努める。 ・卒園児保護者アンケートを実施し、保護者の子どもへの思いや園へのニーズを知り適切に対応していけるようにする。

4. 今後取り組む課題

- ・教師としての質の向上
- ・心をつくる保育環境の充実
- ・『表現』に関する研究
- ・保護者との連携の充実

5. 学校評価の評価結果

今年度の学校関係者評価委員会

評価委員の方には、各学年の子どもたちの様子や園全体での行事や活動をご覧頂くと共に、取り組みの計画・実践内容等を確認して頂いた。評価委員会は学期ごとに1回実施し、保育の様子や子どもたちの姿も見て頂きご意見やご感想を頂いた。

結果	評価委員の意見
A	教師一人ひとりが教育目標の主旨を理解し、自己点検・自己評価に取り組んでいた。今後も、子どもたちのより良い育ちの為に、客観的に自園や自らの教育・保育を振り返り、更に充実した内容の実践が出来るよう努力を重ねてほしい。

6. 財務状況

公認会計士監査より、適正に運営されていると認められている。